この少女の小説がすごい！

砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない　桜庭一樹　角川文庫

　鳥取県境港市のとある中学校に「海野藻屑」というとんでもない名前の女の子が転校してきた。衝撃的な新聞記事の抜粋からはじまるふたりの少女の物語。「好きって絶望だよね」というあのひとことはすごいと思う。

リテイクシックスティーン　豊島ミホ　幻冬舎

「誰にも言わないでね」放課後の教室で孝子は秘密を打ち明けるように話し始めた。沙織は「好きな人がいるの」とでも言われるのかと思えば「自分は本当は無職の27歳で青春をやり直すために2009年からやってきた」と言われどこから突っ込めばいいのかと悩む。1997年の15歳が主人公。SF展開ではなく邪気眼ガールでもなく、「文化祭」とか「彼氏と初めての海」とか「進路」とかめちゃくちゃ王道な高校生の青春です。個人的には豊島ミホは「竹宮ゆゆことあわせて読みたい」作家で「クラスの隅っこが定位置」な、輝きとは程遠いような地味高校生の描写がとてもやばい。連作短編でのオススメは「檸檬のころ」

芙蓉千里　須賀しのぶ　角川書店

　第１次世界大戦の少し前、中国ハルビンが舞台。自ら人買いに志願し「大陸一の女郎」を目指し大陸に渡った東北生まれのフミと、女郎屋酔芙蓉の人々の物語。流血女神伝が好きな人にはとてもオススメ。主人公フミがとてもカリエ。

カーリー　高殿円　ファミ通文庫

　20世紀初頭、インドであってインドではないイギリス人居留地「小さな王国」にあるオルガ女学院。ここは本国ですら廃れてしまったヴィクトリア朝の堅苦しいしきたりが100年前と変わらず生きている。14歳のわたし、シャーロットはここでオニキスの瞳と神秘的な雰囲気を持つカーリーと出会う。寄宿舎はよいですね。そしてライバルの嫌味なお嬢様は取り巻きをつれた縦ロールなんですよ。ビバ小公女セーラ。

ガーデンロスト　紅玉いづき　メディアワークス文庫

　お人好しのエカ　可愛らしいマル　男の子みたいな風貌のオズ　病弱で毒舌なシバ。4人だけの放送部で過ごす最後の1年間がそれぞれの視点で綴られる。小さな本を抱いて眠れない夜を越えていくとかいいよな。痛いと切ないのを混ぜたような少女たちの楽園が卒業の名の下閉ざされるまでの物語。

No call No life　壁井ユカコ　角川文庫

「クリスマスにおかあさんを届けて」と10年前の着信時間で留守電が残されること数回。有海は従兄弟の航と留守電の発信元を探しているうちに海辺で学校一の問題児ハルカワと出会った。有海は初対面で「ハルカワは自分に似ている」と思い、同じ欠落を抱えた二人は惹かれあっていく。根拠の無い万能感に溢れる2人だったが端から見れば「似ているからこそ一緒にいないほうがいい」という恋人同士というよりは不安定で先が危うい共同体にほかならなかった。

花宵道中　宮木あや子　新潮文庫

　江戸末期の吉原を舞台にした遊女の物語。救われないけど希望はあるよ！全体を漂うのは濃厚で甘ったるく退廃的な匂いと遊女同士の絆。遊女だしR18文学賞受賞作なので性描写はがっつりついて回ります。（少女小説紹介本と一緒に配るペーパーなので書きますが）ティアラ文庫作品とは方向が違います。嬌声よりとにかく描写。淫靡さよりあまりあまるせつなさ。

冷たい校舎の時は止まる　辻村深月　講談社文庫

「ねえ、どうして忘れたの？」
ある大雪の日、校舎に閉じ込められた高校生8人。
外部へ連絡を取ろうとして模索しているうちにあることに気づいた。あれだけショックを受けて、今でも当時の光景は目に焼きついているのに目の前で死んだ級友の名前が思い出せない。番外編として「ロードムービー」（講談社ノベルス）も。